



NOVA System



重要 - 安全のために



正三角形に括られた矢印付きの落雷マークは、人体に対して電気ショックを与える、危険な高電圧の絶縁されていない部品が本体内部に配置されていることを示します。



正三角形に括られた「！」サインは、本体の使用上、あるいはサービス／メンテナンス上で、重要な情報が製品に同梱の書類に含まれていることを示します。

- 1 必ずお読みください。
- 2 この書類は手の届くところに保管してください。
- 3 全ての警告をお守りください。
- 4 全ての指示に従ってください。
- 5 本機を水気の近くで使用しないでください。
- 6 本体の手入れは、乾いた布で乾拭きしてください。
- 7 通風に必要となる本体の開口部は塞がないでください。本体の設置は、製造者の指示に従ってください。
- 8 ラジエーター、ヒート・レジスター、暖房機具、音響用アンプリファイア等、またそれに限定されないあらゆる熱を発生する機器の近くに設置しないでください。
- 9 極性プラグ、あるいは接地プラグの安全機構に手を加えないでください。極性プラグは、二つの金属ブレードの内、片側が大きく設計されています。
接地プラグは、二つの金属ブレードに加えてアース用のピンがございます。これらは、安全のための機構です。付属のプラグがコンセントの形状に合わない場合は、最寄りの電気工事業者までご相談ください。
- 10 電源ケーブルとプラグは、踏み付けられたりはさまれたりしない様に設置してください。特に、プラグとコンセント、そして本体と電源ケーブルが接続される周りにはご注意ください。
- 11 本機に設置するアクセサリーや装着器具は、製造者指定のもののみをご使用ください。
- 12  カート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルは製造者が指定するもののみを使用してください。カートを使用した移動の際には、カートと荷物の組み合わせと荷物の落下による事故にご注意ください。
- 13 落雷を伴う天候の場合、あるいは本機を長期間使用されない場合は、本機の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 14 本体の点検・修理が必要となった場合は、必ず認定技術者までご連絡ください。付属の電源ケーブルやプラグが破損した、液体を本体にこぼした、雨や過度の湿度にさらした、本体シャーシ内に異物が入ってしまった、本体の動作異常が生じた、本体を落としたなど、原因に関わらず本機に破損が生じた場合はサービスが必要です。

警告！

- 本体に水が垂れたり跳ねる環境での保管・使用は避け、花瓶等液体の入った物を本体の上に置かないでください。電気ショック、あるいは火事等の恐れがあります。
- 必ずアースを正しく接続してください。
- 製品に同梱されているのと同様の、アース付3芯の電源ケーブルを使用してください。
- 適切な電源ケーブルとプラグ形状・動作電圧は地域によって異なります。
- 以下の表に従い、各地域の規格に準拠した電源ケーブルを使用してください。

Voltage	Line plug according to standard
110-125V	UL817 and CSA C22.2 no 42.
220-230V	CEE 7 page VII, SR section 107-2-D1/IEC 83 page C4.
240V	BS 1363 of 1984. Specification for 13A fused plugs and switched and unswitched socket outlets.

- 本機は、電源ケーブルの抜き差しが容易に行える、コンセントの近くに設置してください。
- 主電源から完全に絶縁するには、電源コードをコンセントから外してください。
- パワーサプライの主電源プラグは容易に操作できる様にしてください。
- 閉じられた空間に設置しないでください。
- 本体を開けしないでください。人体に対して有害な高電圧の電気ショックの恐れがあります。

注意

本マニュアルに明示されていない本体への変更・改造を行った場合、本機器を操作する権利を失うことがあります。

サービスについて

- 本体内にユーザ保守可能なパーツはございません。
- サービスが必要となった場合は、必ず認定の技術者までご連絡ください。

海外準拠規格に基づく記載

EMC / EMI

本機器はFCC 基準 Part 15 に準ずる Class B デジタル機器の制限事項に適合するための試験に合格しています。

これらの制限事項は、居住地域での設置時に生じうる有害な電波障害を規制するために制定されたものです。本機器は無線周波エネルギーを生成・使用しており、これを放射することがあります。指示に従った設置と使用を行わないと、無線通信に障害を及ぼす可能性があります。しかしながら、特定の設置状況において電波障害を起こさないという保証はありません。本機器がラジオやテレビの受信に障害を与えていないかを判断するには、本機器の電源を落としてから再投入してください。障害を及ぼすことがわかった場合、次の方法で障害の解消を試みることを推奨します。

- 受信アンテナの方向、設置場所を変更する
- 本機器と受信機の距離を遠ざける
- 本機器を受信機とは別の系統の電源回路に接続する
- 必要に応じて、販売代理店、または経験のある無線 / TV の専門技術者に問い合わせてください。

For Customers in Canada:

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

本 Class B 電子機器は、カナダ ICES-003 に準拠しています。

Certificate of Conformity

TC Electronic A/S, Sindalsvej 34, 8240 Risskov, Denmark, hereby declares on own responsibility that the following product:

NOVA System

- Effects Processor for electric guitars

that is covered by this certificate and marked with CE-label conforms with following standards:

EN 60065 (IEC 60065)	Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for household and similar general use
EN 55103-1	Product family standard for audio, video, audio-visual and entertainment lighting control apparatus for professional use. Part 1: Emission.
EN 55103-2	Product family standard for audio, video, audio-visual and entertainment lighting control apparatus for professional use. Part 2: Immunity.

With reference to regulations in following directives:

73/23/EEC, 89/336/EEC

Issued in Risskov, January 2008
Mads Peter Lübeck
Chief Executive Officer

イントロダクション

重要 – 安全のために	a
海外準拠規格に基づく記載	b
目次	3
イントロダクション	5

各部の名称と機能

フロントパネル	6
基本操作	7
リアパネル	9

セットアップ例

基本セットアップ	10
エフェクト・ループ	11

メニュー

Routing - ルーティング・メニュー	12
Levels - レベル・メニュー	14
Boost - ブースト	15
Pedal - ペダル・メニュー	16
Utility - ユーティリティ・メニュー	18
チューナー	20
MIDI メニュー	21

プリセット操作

Recall - リコール (プリセットの呼び出し)	24
Edit - エディット (プリセットの編集)	24
Store - ストア (プリセットの保存)	25
Delete - デリート (プリセットの削除)	25

エフェクト**DRIVE - ドライブ**

Overdrive - オーバードライブ	26
Distortion - ディストーション	26

COMP - コンプレッサー

Advanced - アドバンス	27
Sustaining - サステイン	28
Percussive - パーカッシブ	28

EQ & NOISE GATE - EQ & ノイズゲート

パラメトリック EQ	29
ノイズゲート	29

MOD - モジュレーション

Phaser - フェーザー	31
Tremolo - トレモロ	32
Panner - パンナー	33
Chorus - コーラス	34
Flanger - フランジャー	35
Vibrato - ビブラート	36

PITCH - ピッチ

Detune - ディチューン	37
Whammy - ワーミー	37
Octaver - オクターバー	38
Pitch Shift - ピッチシフト	39
Intelligent Pitch Shifter - インテリジェント・ピッチシフター	40

DELAY - ディレイ

共通パラメータ	41
Clean Delay - クリーン・ディレイ	42
Analog Delay - アナログ・ディレイ	42
Tape Delay - テープ・ディレイ	42
Ping Pong - ピンポン	42
Dual Delay - デュアル・ディレイ	43
FX Spillover - エフェクト・スピルオーバー	43

REVERB - リバーブ

共通パラメータ	44
Spring - スプリング・リバーブ	44
Hall - ホール・リバーブ	44
Room - ルーム・リバーブ	44
Plate - プレート・リバーブ	44

付録

仕様及び性能	46
--------	----

Nova System - オールインワンの神髄

Nova System は、クオリティを知るギター・プレイヤーのためのフロア型統合エフェクト・ソリューションです。オール・アナログのディストーション／オーバードライブ・セクションを搭載しながらもその設定は完全なプリセット・コントロール可能で、エクスプレッション・コントロールにも対応しています。ラックのセットアップを省スペースにまとめたり、ペダルの配線に嫌気がさした、またはシンプルな操作と音質面での優位性を追求したい方に最適な選択肢となるでしょう。

搭載エフェクトの大半はフロア型プロセッサの頂点である G-System のアルゴリズムを採用し、トップクラスのコンプレッション／EQ／ノイズ・ゲート／モジュレーション／ピッチ／ディレイ／リバーブが足元に並びます。ギターとアンプを用意するだけで、ファーストクラスの旅が始まります。

アナログのドライブ回路を搭載

Nova System は、NDT™ (Nova Drive Technology - Nova ドライブ・テクノロジー) を搭載。利便性のみを追求してモデリングに逃げることなく、本物のアナログ回路を使ったディストーションとオーバードライブを行なえます。NDT™ では、その設定をデジタル・コントロールすることができます。サウンドの回路自体は 100% アナログでデジタル・エフェクトとは物理的に分離されたセクションにあるものの、パラメータ設定用のノブはデジタル方式を採用。アナログ回路の設定を記憶させたり瞬時に変更することが可能になるだけでなく、エクスプレッション・ペダルからディストーション量をリアルタイムで操作するといったことも可能となります。広いゲイン・レンジを確保し、軽く割れる程度のサウンドからヘビーなディストーションまでを実現します。

最高級のエフェクト

Nova System は、シンプルなセットアップと TC クオリティーのエフェクトを両立。ディレイ／リバーブ／コンプレッサー／EQ／モジュレーションと、トーンを損うことのない幅広い TC エフェクトを搭載しています。これらのエフェクトから、60 ものユーザー・プリセットを作成可能。Nova System の可能性を示す 30 のファクトリー・プリセットは多様なエフェクト設定の組み合わせで構成され、瞬時に Nova System の可能性に触れることができます。

主な機能

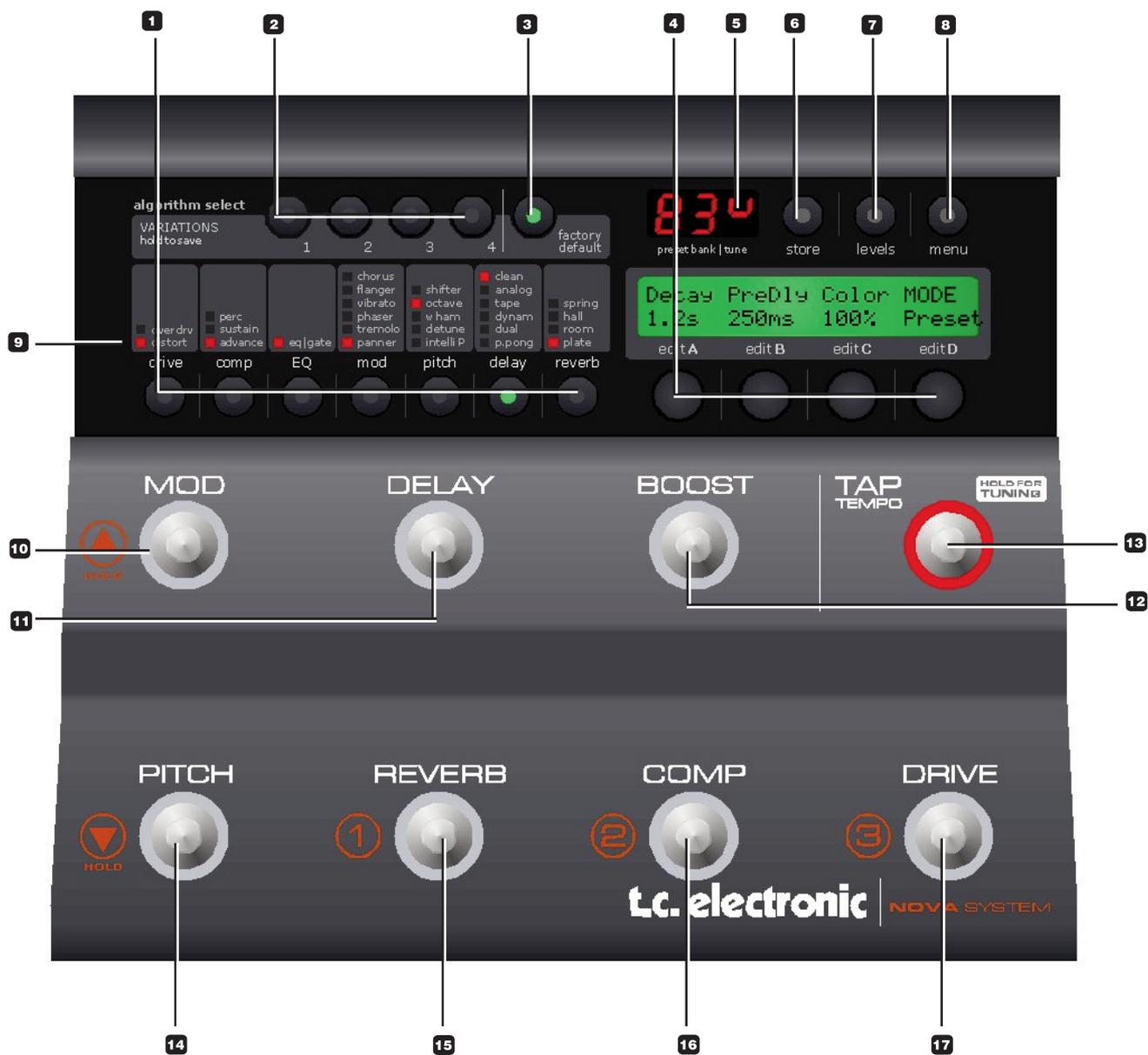
- プリセットとエクスプレッション・コントロール対応のオール・アナログ・ディストーション及びオーバードライブ
- G-System の 6 つのエフェクト・ブロックを搭載
 - コンプレッション
 - EQ + ノイズゲート
 - モジュレーション
 - ピッチ
 - ディレイ
 - リバーブ
- 30 ファクトリー・プリセット、60 ユーザー・プリセット
- 2 種類のフットスイッチ・レイアウト：プリセット／ペダル
- Hi-Z ならびにバランス・インプット、バランス・ステレオ・アウト
- G-Switch (オプション) によるスイッチング機能の拡張に対応

マニュアルの改訂版はページ 3 の下部に表記がございます。

最新版のマニュアルは、www.tcelectronic.com からダウンロードできます。さらなる詳細は、同 URL からアクセス可能な TC Support Interactive サポート・サイトをご参照ください。



フロントパネル



1 エフェクト・エディット／セレクト・ボタン

ボタンを一度押すと、エフェクトのエディット・モードに入ります。ボタンを再度押すと、エフェクト・タイプが順番に切り替わります。ボタンを長押しすると、保存せずにエフェクト・エディット・モードを終了します。

2 VARIATIONS - バリエーション・ボタン

エフェクト・タイプ毎に、4つのバリエーションが保存できます。この機能により、お気に入りの設定のリバーブを同じくお気に入りのコンプレッサーと組み合わせる、といった作業が素早く行なえます。

例

- COMP エディットを押し、コンプレッション・ブロックにアクセスします。
- EDIT A～D エンコーダーでコンプレッションの設定をエディットします。
- VARIATION #1 ボタンを長押しして、この設定を「お気に入り」として保存します。この時点では、プリセットは保存されておらず、この設定を「お気に入り」として指定しているだけです。
- そのコンプレッションの設定を、別のプリセットで使用してみます。まずは、別のプリセットを呼び出します。
- COMP を押し、VARIATION #1 ボタンを押します。
- これで、新しく呼び出したプリセットに「お気に入り」のコンプレッション設定が反映されます。

VARIATION キー LED

VARIATION キーの LED の点灯は、そのキーにバリエーションの設定が保存されていることを示します。

VARIATION の削除

いずれかの VARIATION キーを押しながら FACTORY DEFAULT (ファクトリー・ディフォルト) ボタンを長押しします。キーに関連付けられているバリエーションが削除されます。

3 Factory Default - ファクトリー・ディフォルト・ボタン

アルゴリズム毎に、標準的な設定が用意されています。このボタンを押すことにより、いつでも選択されているアルゴリズムをその標準的な設定に復帰させることができます。

例

コンプレッション／EQ／モジュレーション／ディレイを組み合わせたプリセットがあるとします。しかしながら、最後にリバーブを設定している途中で設定を変え過ぎてしまったため、リバーブだけを標準的な設定に戻りたいとします。このような場合、Nova System では、他のプリセットに一度切り替えて、そちらのリバーブの設定をメモに取って元のプリセットに戻す、といった面倒な作業は必要ありません。他のエフェクトはそのままに、リバーブだけを「ファクトリー・ディフォルト」、すなわち TC エレクトロニックが推奨する標準的な設定に戻すことができます。

- この場合はリバーブをエディットしている途中なので、REVERB EDIT LED が点灯しているはずですが。
- FACTORY DEFAULT ボタンを押します。



エフェクトのサブ・タイプごとに、ファクトリー・ディフォルトの設定が用意されています。

4 Edit A / B / C / D - エディット A / B / C / D エンコーダー

ノブの上に表示されているパラメータの値を変更します。

5 TUNE - チューナー表示

チューナー・モード時に、音程のシャープ／フラットさを示します。

6 STORE - ストア (保存) ボタン

プリセットは、「クイック・ストア」と「ノーマル・ストア」いずれかの方法で保存できます。クイック・ストアは、プリセットに変更を加えた後で、元のプリセットを上書きする形で同じプリセット番号に設定を保存します。別のプリセット番号に設定を保存したり、プリセット名を変更したい場合には、ノーマル・ストアを使用します。

クイック・ストア - STORE ボタンを 2 秒間長押しします。プリセットは、元の場所に保存されます。



ファクトリー・プリセットに対してクイック・ストアを行なおうとすると、ファクトリー・プリセットは上書きできないために、自動的にノーマル・ストアに切り替わります。

ノーマル・ストア - STORE ボタンを一度押します。

基本操作

次の方法で設定を行ないます。

- エンコーダーAでプリセットの保存場所を指定
- エンコーダーBでプリセット名のキャラクターを選択
- エンコーダーCでキャラクターを変更
- エンコーダーDでリコール（呼び出し）／デリート（削除）／ストア（保存）を切替

各エンコーダーで設定を行なったら、再度 STORE ボタンを押して操作を確定します。

7 LEVELS - レベル・ボタン

プリセットごとに、出力レベルを設定できます。レベル・メニューの他のパラメータは全て「グローバル」な扱いとなり、設定はプリセットを切り替えても変わりません。



全てのプリセット・パラメータは、ディスプレイの右側に「P」と記されています。

8 MENU - メニュー・ボタン

このボタンでアクセスするメニューからは、ルーティング、ペダル、モディファイア、MIDIの設定、そして各種ユーティリティのパラメータが含まれます。詳細は、マニュアルの各セクションをご参照ください。

9 エフェクト・ステータス LED

各エフェクト・ブロックで選択されているエフェクトを表示します。

10 MOD - モジュレーション

モジュレーション・ブロックのオン／オフ・スイッチです。

二次機能:

長押しすると、次のプリセット・バンクに移動します。

11 DELAY - ディレイ

ディレイ・ブロックのオン／オフ・スイッチです。

12 BOOST - ブースト

ブースト機能のオン／オフ・スイッチです。ブースト・レベルは、プリセット単位で0～10 dBの範囲で設定できます。

13 TAP TEMPO / HOLD FOR TUNING - タップ・テンポ／長押しでチューニング

このスイッチは2つの機能を持ちます。

タップ・テンポ:

スイッチをタップすることにより、Nova Systemのグローバル・テンポを指定できます。ここで指定したテンポは、ディレイとモジュレーション・エフェクトに反映されます。

チューニング:

スイッチを長押しすると、チューナー・モードに入ります。チューナー・モード時には、出力を切り、無音でチューニングを行なうことが出来ます。この設定は、ユーティリティ・メニューのTuner Out（チューナー・アウト）パラメータで行ないます。チューナー・モード時には、チューナー関連のパラメータが自動的に表示され、設定を変更できます。

14 PITCH - ピッチ

ピッチ・ブロックのオン／オフ・スイッチです。

二次機能:

長押しすると、一つ少ない番号のプリセットに移動します。

15 REVERB / PRESET 1 - リバース／プリセット1

ストンプ・ボックス・モードでは、ピッチ・ブロックのオン／オフを行ないません。

プリセット・モードでは、選択されているバンクのプリセット #1 を呼び出します。

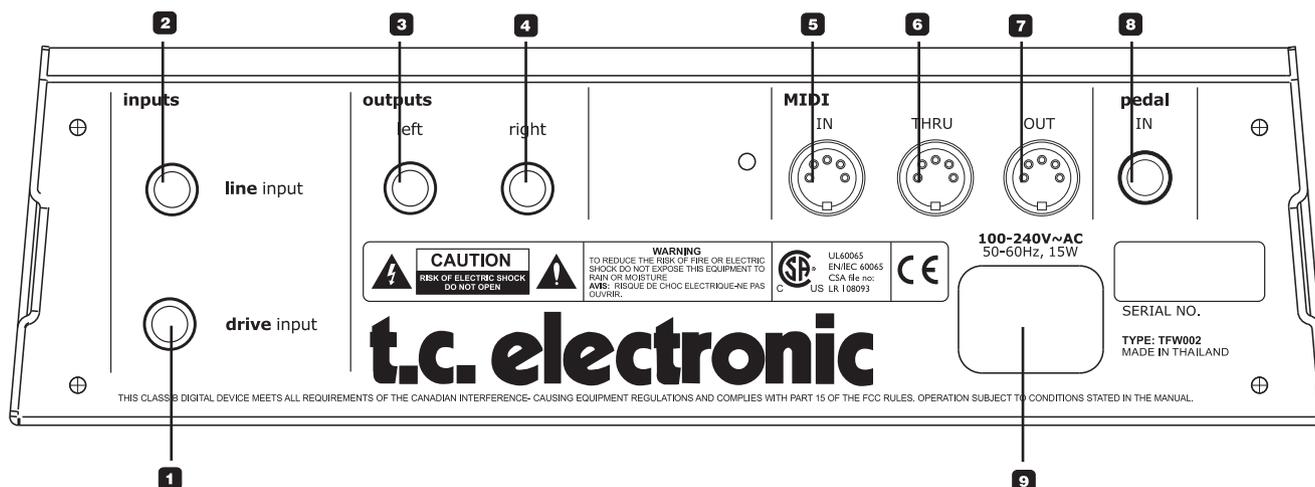
16 COMP / PRESET 2 - コンプ／プリセット2

ストンプ・ボックス・モードでは、コンプレッサー・ブロックのオン／オフを行ないません。

プリセット・モードでは、選択されているバンクのプリセット #2 を呼び出します。

17 DRIVE / PRESET 3 - ドライブ／プリセット3

ストンプ・ボックス・モードでは、ドライブ・セクションのオン／オフを行ないません。プリセット・モードでは、選択されているバンクのプリセット #3 を呼び出します。



1 DRIVE INPUT - ドライブ・インプット

ギター用の入力です。Nova System のプログラマブル・アナログ・ドライブ・セクションを使用する場合にこの入力を選択します。コネクター・タイプ：1/4"ジャック

2 LINE INPUT - ライン・インプット

Nova System をアンプのエフェクト・ループで使用する場合、アンプのループ・センドを Nova System の LINE INPUT に接続します。Nova System のプリアンプ・セクションはバイパスされ、アンプのプリアンプをドライブ用に使用できます。

3/4 OUTPUTS (LEFT / RIGHT) - アウトプット (レフト/ライト)

1/4"TRS ジャックのバランス出力端子です。モノラルで単体のアンプに接続する場合は、レフト・アウトプットを使用します。

5/6/7 MIDI IN / OUT / THRU

MIDI 信号の交信を行なうための、標準的な入出力及びスルー端子です。

8 PEDAL IN - ペダル・インプット

パラメータをペダルからコントロールするためのペダル入力端子です。数種類のペダルを使用できます。

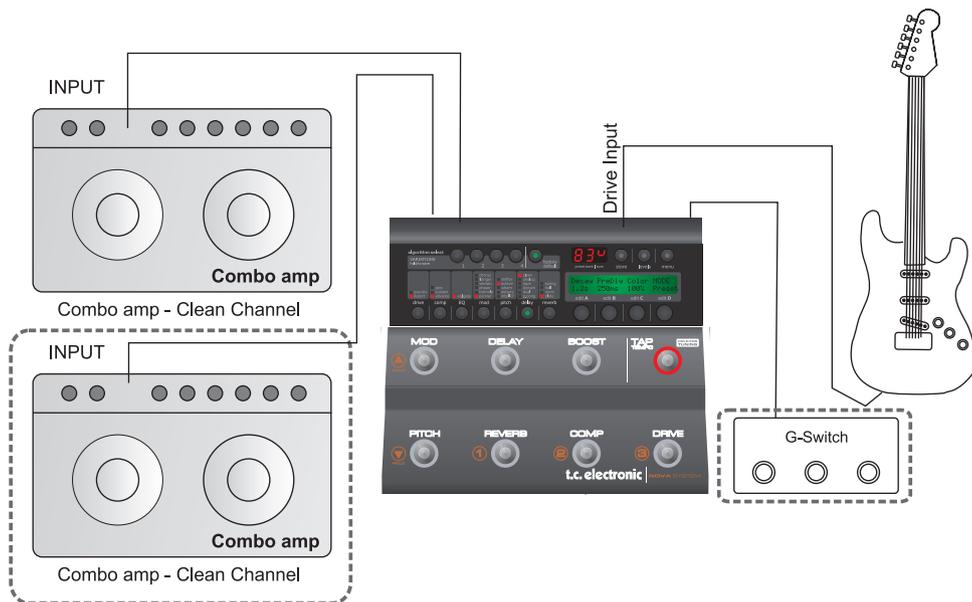
- プリセット変更用に G-Switch を接続することにより、Nova System 本体の 8 つのボタン全てをエフェクト・バイパスに使用できます。
- ボリューム等をコントロールするためのエクスプレッションまたはボリューム・ペダルを接続できます。
- Nova System は、ペダルの機種に合わせて特性を合わせる「キャリブレーション」機能を備えています。キャリブレーションは、ペダル・メニューから行ないます。
- ペダルでコントロールするパラメータの指定は、ペダル・メニューで行ないます。

9 POWER IN - 電源入力

スイッチモードの電源サプライです。100 ~ 240 VAC の電圧に対応します。

セットアップ例

基本セットアップ



Nova System を 1 台のコンボ・アンプ（ステレオの場合は 2 台）のクリーン・チャンネルに接続する基本的なセットアップです。全てのエフェクトとオーバードライブ／ディストーションは Nova System に生成させます。オプションの G-Switch を接続すると、Nova System は自動的にストップ・モードとなります。この場合、G-Switch でプリセットのリコールを行いません。

接続

- ギターを Nova System の Drive Input に接続します。
- Nova System のレフト・アウトをギターアンプのクリーン・チャンネルに接続します。
- ステレオのセットアップを構築する場合には、ライト・アウトを 2 台目のアンプに接続します。
- オプションの G-Switch を接続する場合は、Nova System の PEDAL IN 端子に接続します。

基本的な設定

- レベル・メニューで入力感度を設定します。

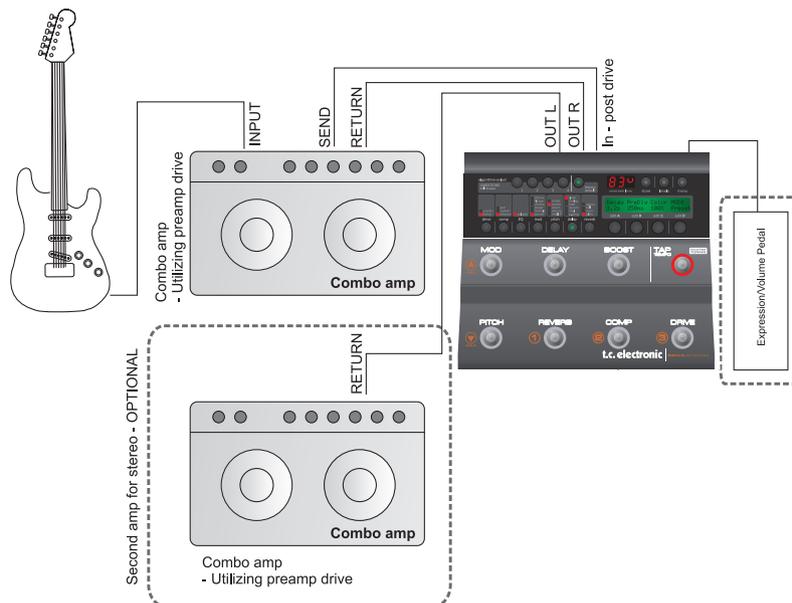
G-Switch を使用する場合

- エフェクト・ブロックの個別オン／オフにはエフェクト・スイッチを使用します。
- プリセット変更には G-Switch を使用します。

G-Switch を使用しない場合

- ストップまたはプリセット・モードを選びます。
- プリセット・モードの場合は、プリセットを選択します。
- エフェクト・ブロックの個別オン／オフにはエフェクト・スイッチを使用します。

エフェクト・ループ



このセットアップでは、ドライブにアンプのプリアンプ・セクションを使用します。この場合は Nova System のライン入力を使用し、Nova System のドライブ・セクションをバイパスします。ボリューム等のコントロール用に、エクスプレッション・ペダルを接続しています。

接続

- ギターをコンボ・アンプのインプットに接続します。
- アンプのエフェクト・ループ・センドを Nova System の LINE INPUT 端子に接続します。
- レフト・アウトをアンプのエフェクト・ループ・リターン (=パワー・アンプ・イン) 端子に接続します。ステレオのセットアップを構築する場合には、ライト・アウトを2台目のアンプのエフェクト・ループ・リターン (=パワー・アンプ・イン) 端子に接続します。
- エクスプレッション・ペダルを Nova System の Pedal In に接続します。

基本的な設定

- レベル・メニューで、最大のペダル・レベルにおける入力感度を設定します。
- ストンプまたはプリセット・モードを選びます。
- プリセット・モードの場合は、プリセットを選択します。
- エフェクト・ブロックの個別オン/オフにはエフェクト・スイッチを使用します。
- ペダル・メニューでエクスプレッション・ペダルのキャリブレーションを行いません。
- ペダル・メニューでエクスプレッション・ペダルを任意のパラメータにアサインします。

ROUTING - ルーティング・メニュー

ROUTING - ルーティング

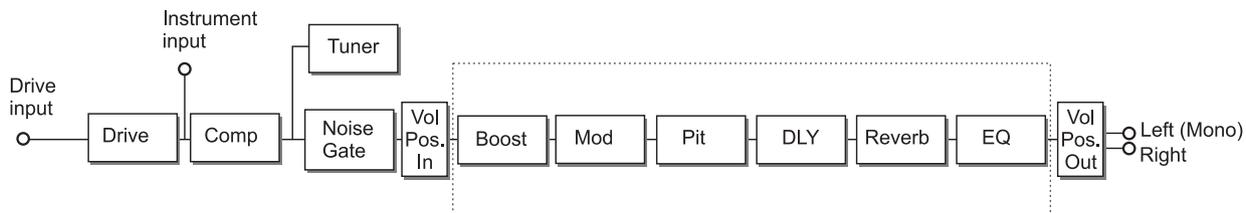
「ルーティング」とは、信号の接続経路を意味します。Nova System では、シリアル／セミ・パラレル／パラレルの3種類のルーティングを選択できます。

基本的な設定

- MENU ボタンを押します。
- エンコーダーDで、Routing (ルーティング) を選択します。
- MENU を押し、選択を確定します。
- エンコーダーA / B / C で設定を変更します。
- エンコーダーDでページを切り替えます。
- MENU を押すと、設定が確定します。
- メニューを終了するには、再度 MENU ボタンを押します。

Serial - シリアル (直列)

シリアル・ルーティングは、全てのエフェクト・ブロックをシリアル (直列) につなぎ、一般的なコンパクト・エフェクトなどを数珠つなぎにした場合と同様の効果が得られます。各エフェクトの信号は、その次のエフェクトに送られます。

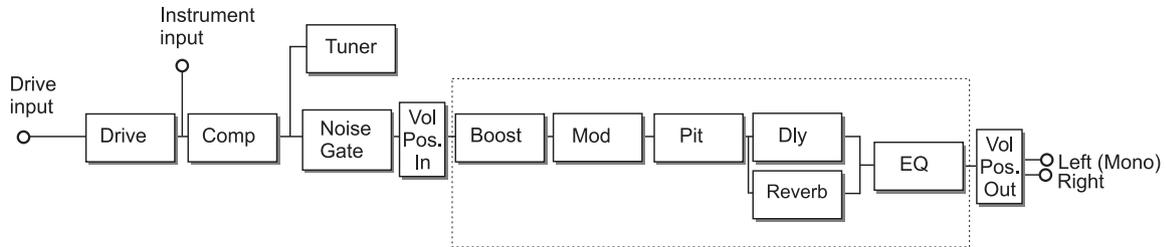


シリアル・ルーティングで長いディレイをリバーブと組み合わせると、ディレイ成分に対してリバーブがかかってしまい、良好なサウンドが得られないことがあります。この場合は、後述の Semi Parallel (セミ・パラレル) または Parallel (パラレル) ルーティングをご使用ください。

ROUTING - ルーティング・メニュー

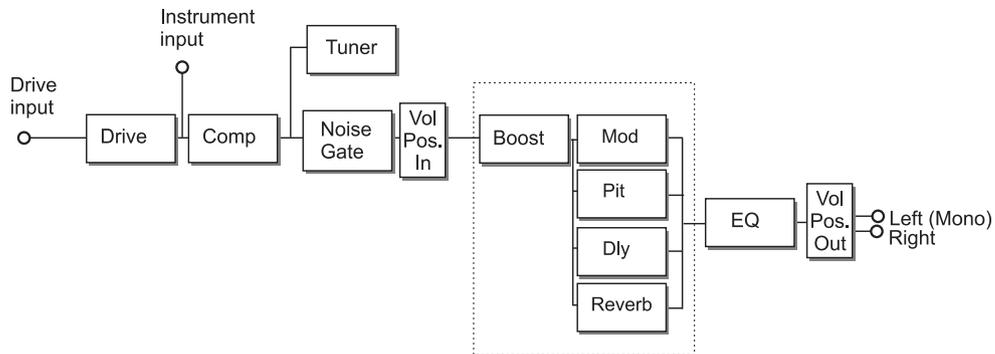
Semi Parallel - セミ・パラレル (準並列)

セミ・パラレル・ルーティングでは、ほとんどのエフェクト・ブロックがシリアル (直列) で接続されますが、リバーブとディレイ・ブロックのみがパラレル (並列) となります。その結果、ディレイとリバーブは相互で干渉が起きません。ディレイの反復成分に対してリバーブがかかることはありません。



Parallel - パラレル (並列)

パラレル・ルーティングは、モジュレーション/ディレイ/リバーブ・セクションのエフェクトをパラレル (並列) につなぎます。これらのエフェクトの間では、一つのエフェクトの設定が他のエフェクトの出力に影響することはありません。



LEVELS - レベル・メニュー

LEVELS - レベル・メニュー

基本的な設定

- LEVELS ボタンを押します。
- エンコーダー A / B / C で設定を変更します。
- エンコーダー D でページを切り替えます。

別途記載のない場合、各種レベルは -100dB ~ 0dB の設定レンジを持ちます。

Volume - ボリューム

設定レンジ：-100 dB ~ 0 dB

レベル・コントロールです。エフェクト処理のプリとポストいずれかに配置できます。ボリューム・コントロールのポジションは、Position パラメータで指定します。(ルーティング図参照)

Input Gain - インプット・ゲイン

設定レンジ：0 dB ~ 24 dB

使用するギターによって、出力レベルは異なります。また、Nova System の前に別のペダルを使用している場合は、そのペダルもレベルを変えてしまいます。ここで、ゲインを合わせます。

- Nova System の前に信号をブーストするペダルを接続している場合は、それらをオンにします。
- ギターから、最大の音量が出力されるように弾いてみます。
- 「0」と表示されるまでライン・ゲインを調節します。

```
LEVELS MENU >>>>>>>>>0
InputGain : 16 (unity)
```

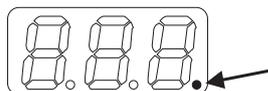
- そこから、数 dB ゲインを下げます。

```
LEVELS MENU >>>>>>>
InputGain : 14
```

- これで、ゲインが正しく設定され、ユニティ・ゲインが得られるはずです。

クリッピング・インジケータ

ギターを変えたり Nova System の前に接続しているペダルのレベルを変えたなどの理由で入力レベルが大幅に変わった場合、Nova System のインプットがクリップすることがあります。クリッピングが生じると、数値ディスプレイ右端の点が点灯します。



Left Out / Right Out - レフト・アウトプット / ライト・アウトプット

設定レンジ：-100 dB ~ 0 dB

左右チャンネルの出力レベルを独立して設定できます。これらの設定は、プリセットに保存されます。

Input - インプット

設定レンジ：Drive (ドライブ) / Line (ライン)

インプットを選択します。ギターを DRIVE INPUT 端子に接続し、Nova System のドライブ・ブロックを使用する場合には Drive に設定します。ギターを LINE INPUT 端子に接続している場合は Line を選択します。(ルーティング図参照)

Volume Position - ボリューム・ポジション

設定レンジ：Pre (プリ=前) / Post (ポスト=後)

多くの場合、Volume パラメータはエクスプレッション・ペダルでコントロールすることとなります。Nova System では、デフォルトでエクスプレッション・ペダルが Volume をコントロールする設定になっています。

Volume Position は、ボリューム調節をエフェクトのプリ (前) で行なうか、ポスト (後) で行なうかを選択します。

Pre (プリ) : ドライブ・セクション直後の、他のエフェクトの前段階でボリュームを調節します。エクスプレッション・ペダルなどでボリュームを絞った時に、ディレイやリバープなどの余韻が鳴り続けます。

Post (ポスト) : エフェクトの後でボリュームを調節します。エフェクトを含む全体のボリュームをコントロールします。

Advanced - アドバンス・モード (高度な設定)

設定レンジ： On / Off

ここをオンにすると、次の高度なレベル・パラメータにアクセスできます。アドバンス・モードに入ると、前ページの Input Gain セクションで述べられている自動ユニティ・ゲイン設定は無効となり、レベル関連のパラメータを手動で設定できるようになります。

Boost Max - 最大ブースト

設定レンジ： 0 dB ~ 10 dB

ブースト機能の最大幅を指定します。デジタルの領域では 0 dBFS が絶対的なレベルの上限となるため、ブーストを行なうには、常にレベルの余裕を持たせなければなりません。つまり、ブーストを行なうということは、通常はレベルを下げておき、ブースト時に元に戻す、ということになります。アドバンス・モードでブースト機能を使用する場合、ここと Output Range パラメータの組み合わせでユニティ・ゲインを保つことができます。アドバンス・モードでブースト機能を使うことがない場合は、このパラメータは 0 dB に設定してください。

Output Range - 出力レンジ

設定レンジ： 2 dBu / 8 dBu / 14 dBu / 20 dBu

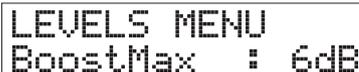
適正值は、InGain の設定によって異なります。InGain を高く設定している程、Output Range は逆に低く設定することが必要となります。

Boost - ブースト

プリセットを作成し、それらのレベルの統一も完了したとします。そこで、曲の中の重要なフレーズなど曲の限られた部分で、スイッチ一つで簡単にレベルを持ち上げることができたら...ブースト機能は、このような場合に活躍します。アドバンス・モードのレベル・メニューで最大のブースト幅を指定した上で、プリセット毎にブーストするレベルを指定できます。

基本的な設定

- LEVELS ボタンを押します。
- Advanced パラメータをオンにします。
- BoostMax パラメータを選択し、ブーストの最大値を指定します。



```
LEVELS MENU
BoostMax : 6dB
```

- メニューを終了し、レベルをブーストさせたいプリセットを選択します。
- DRIVE を押し、Boost Max.までの範囲内でブースト・レベルを指定します。

ブースト機能のその他のパラメータ

Boost Lock - ブースト・ロック

設定レンジ： On / Off

ブースト・ロック機能をオンにすると、レベル・メニューの Boost Max. で指定した dB 分のブーストが全てのプリセットで行なわれます。

Boost Level - ブースト・レベル

ブースト・ロック機能がオフの場合は、プリセット毎にブーストのレベルを指定できます。設定レンジは、Boost Max.パラメータの設定値が上限となります。Boost Max. はレベル・メニューにございます。

PEDAL - ペダル・メニュー

Pedal - ペダル・メニュー

基本的な設定

- MENU ボタンを押します。
- エンコーダー D で、Pedal (ペダル) を選択します。
- MENU を押し、選択を確定します。
- エンコーダー A / B / C で設定を変更します。
- エンコーダー D でページを切り替えます。
- ディスプレイ右側に <menu> と点滅している場合、MENU を押すと、設定が確定します。
- メニューを終了するには、再度 MENU ボタンを押します。

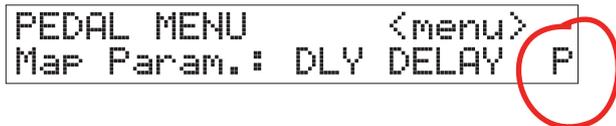
特定のパラメータを外部コントロールするために、エクスプレッション・ペダルを接続することができます。

このメニューでは、ペダルへのパラメータの割り当て、接続されたペダルのキャリブレーション、そしてペダルのカーブを Min / Mid / Max パラメータで設定できます。

「P」と記されたパラメータについて

このメニューのパラメータは、一部がグローバルで、残りはプリセットのパラメータとなります。「P」と記されたパラメータは、その設定がプリセットに保存されます。グローバル・パラメータの設定は、プリセットに保存されません。

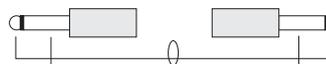
例：



エクスプレッション・ペダルの接続

使用するエクスプレッション・ペダルによって、適したケーブルの種類は異なります。通常は、TS (モノラル) か TRS (ステレオ) の 1/4"-1/4" ケーブルを使用します。

モノラル



ステレオ

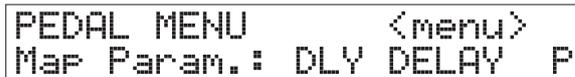


どちらのケーブルが適しているかわからない場合は、両方のケーブルを試す必要があるかもしれません。Nova System は、エクスプレッション・ペダルの出力コネクタの信号を検知します。そのため、エクスプレッション・ペダルには、一本のケーブルのみを使用してください。

Map Param. - マップ・パラメータ

PEDAL IN 端子に接続されたペダルに割り当てるパラメータを指定します。

- ペダル・メニューに移動します。



- コントロールするパラメータを選択します。
- MENU を押し、選択を確定します。
- Min / Mid / Max を設定します。

Map Min / Mid / Max - マップ最小点/中間点/最大点

設定レンジ：0 ~ 100%

ペダル・イン端子に接続されたペダルに割り当てたパラメータの反応を指定します。ペダルの位置に応じて値を設定できます。

Master - マスター

プリセットを切り替えると、エクスプレッション・ペダルの位置とプリセットに保存されている値に不一致が生じることがあります。このパラメータは、エクスプレッション・ペダルを PEDAL IN 端子に接続した状態でプリセットをリコールした際に、どちらの設定を優先するかを指定します。

Preset (プリセット) - プリセットに保存された値が優先されます。エクスプレッション・ペダルの位置は無視されます。

Pedal (ペダル) - エクスプレッション・ペダルの位置が優先されます。プリセットに保存された値は無視されます。

Type - タイプ

PEDAL IN 端子に接続する機器に応じて、Expression (エクスプレッション) または G-Switch を選択します。エクスプレッション・ペダルは、キャリブレーションが必要です。G-Switch を接続していて Type パラメータを G-Switch に設定すると、G-Switch でプリセット変更が行なえるようになり、Nova System の 8 つのスイッチ全てはエフェクトのオン/オフ・スイッチとなります。

Calibration - キャリブレーション

エクスプレッション・ペダルは、各社より異なる抵抗値と曲線のものが発売されています。エクスプレッション・ペダルを Nova System で使用する際には、次の手順でペダルのキャリブレーションを行なってからご使用ください。

- ペダルを Nova System のペダル・イン端子に接続します。
- ペダル・メニューの「Calibrate」を選択します。

```
PEDAL MENU  
CALIBRATE <menu>
```

- MENU を押します。
- 画面には次のように表示されます。

```
PEDAL CALIBRATE  
Set Min: 0 <menu>
```

- ペダルを最小の位置 (かかと側) に設定し、MENU を押します。



- 画面には次のように表示されます。

```
PEDAL CALIBRATE  
Set Max: 0 <menu>
```

- ペダルを最大の位置 (つま先側) に設定し、MENU を押します。



- 画面に「CALIBRATION DONE」(キャリブレーション終了) と表示されます。

```
PEDAL CALIBRATE  
> CALIBRATION DONE <
```

UTILITY - ユーティリティ・メニュー

Utility - ユーティリティ・メニュー

基本的な設定

- MENU ボタンを押します。
- エンコーダー D で、Utility (ユーティリティ) を選択します。
- MENU を押し、選択を確定します。
- エンコーダー A / B / C で設定を変更します。
- エンコーダー D でページを切り替えます。

FX Mute - エフェクト・ミュート

プリセットを変更した場合や、リバーブとディレイをバイパスした時に、その二つのエフェクトがどのように作動するかを指定します。

Soft - ソフト

ディレイとリバーブは、余韻まで鳴り続けます。

ディレイはスビルオーバー機能を搭載しており、FX Mute パラメータが Soft の状態で長いディレイ・タイムの設定を使用している場合、異なるディレイの設定を使用したプリセットに切り替えた際にも元のエフェクトが鳴り続けます。

リバーブの場合、プリセット変更時に鳴り続ける設定にできますが、切り替えた新しいプリセットの設定に移ります。

Hard - ハード

ディレイとリバーブはミュートされ、音が途切れます。

Tap Master - タップ・マスター

プリセットには、グローバル・テンポと、固定のディレイ・タイムの両方の設定が保存されています。このパラメータは、プリセットを変更した際に、テンポをプリセットの値に変更するか、グローバル・テンポを維持するかを指定します。

Preset - プリセット

プリセットに保存されているディレイ・タイムが優先されます。その後テンポをタップしたり、設定を変更した際のディレイ・タイムは、新しいテンポに対して Subdivision で指定した拍となります。

Global - グローバル

現在のグローバル・テンポが優先されます。実際のディレイ・タイムは、テンポに対して Subdivision で指定した拍となります。

Boost Lock - ブースト・ロック

設定レンジ： On / Off

ブースト・ロック機能をオンにすると、Boost Max. で指定した dB 分のブーストが全てのプリセットで行なわれます。

EQ Lock - EQ ロック

設定レンジ： On / Off

EQ ロック機能をオンにすると、現在の EQ 設定が全てのプリセットで使用されます。

Routing Lock - ルーティング・ロック

設定レンジ： On / Off

ルーティングを固定させます。

FactoryLck - ファクトリー・バンク・ロック

設定レンジ： On / Off

Nova System は、その幅広いサウンドの可能性を示す多数のファクトリー・プリセットを搭載しています。使いこなして自分のプリセットを作成していくうちに、ファクトリー・プリセットは一切使用しなくなることが考えられます。この様な場合、ライブなどで間違っただけでファクトリー・プリセットを呼び出してしまふ状態を防ぎたいかもしれません。FactoryLck をオンにすると、バンクの切り替えを行なっても、ファクトリー・バンクは無視されるようになります。

SpeakerSim - スピーカー・シミュレーター・フィルター

設定レンジ： On / Off

ギター用のキャビネットで音を鳴らしている際の高域のロールオフを再現します。Nova System のアウトプットをキキサーやレコーディング用オーディオ・インターフェイスのインプットに直接接続する場合にオンにします。



スピーカー・シミュレーターをオンにすると、EQ セクションは無効となります。



通常のギター・アンプに接続する場合、スピーカー・シミュレーターはオフにしてください。オンのままだと、音がこもりがちになります。

Footswitch - フットスイッチ

設定レンジ：Pedal (ペダル) / Preset (プリセット)

Pedal - ペダル (ストンプ) モード:

フットスイッチはエフェクトのオン/オフ・スイッチとして機能します (+タップ・テンポ)。コンパクト・エフェクト8つを足もとでコントロールするのと同様の状態となります。この場合でも、プリセットとプリセット・バンクの切り替えは可能です。

プリセットの変更

- 3つのプリセット・スイッチのいずれかを長押しします。

バンクの変更

- 左2つのボタン (MODまたはPITCH) のいずれかを長押しします。プリセット・ボタン3つとMOD・PITCHスイッチが全て点滅し、バンク選択のモードにいることを示します。
- MODかPITCHをタップするとバンクが順番に切り替わります。長押しすると、バンクがスクロールします。

Preset - プリセット・モード (デフォルト設定)

3つのフットスイッチでプリセットを選択します。プリセット・バンクを切り替えるには、前述の手順で操作を行ないます。

G-Switch を接続した状態でのペダル・モード

G-Switchをリアパネルのペダル・インに接続した場合は、そのスイッチでプリセットを切り替えることができます。こうすることにより、本体のエフェクト・オン/オフ・スイッチはエフェクトのバイパス切り替え専用を使い、G-Switchでプリセットの切り替えを行なうことができます。

G-Switchを使用する場合は、ペダル・メニューのPedal TypeをG-Switchに設定してください。

```
PEDAL MENU
Type      : G-Switch
```

View Angle - ヴュー・アングル (可視角度)

液晶ディスプレイのバックライトを見やすい様に調節します。

Clear System - システム・クリア

Nova Systemを工場出荷時の設定に戻します。MENUを押すと、操作が実行されます。

チューナー

基本的な設定

- チューナーを起動させるには、右上のフットスイッチを長押しします。
- エンコーダー A / B / C で設定を変更します。
- エンコーダー D でページを切り替えます。
- いずれかのフットスイッチを押すと、チューナー機能は終了します。

チューナー・モードでは、次のパラメータを設定できます。

Tuner Out - チューナー・アウト

Mute (ミュート)

チューナー機能を使用時に、出力はミュートされます。

On (オン)

チューナー機能を使用時に、出力はミュートされません。

Tuner Ref - チューナー基準ピッチ

設定レンジ：420 ~ 460 Hz

チューナーの基準ピッチを指定します。デフォルトの設定は440 Hzです。

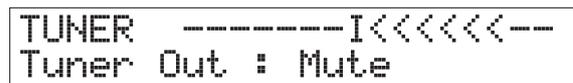
例 - ギターのチューニング

- 右上のフットスイッチをチューナー・モードが起動するまで長押しします。



- 単音の解放弦を弾きます (例：A)。
音程がAから±100セントの範囲内にある場合、チューナーは「A」の音程を認識し、音程が正しいかあるいは上下にずれているかを表示します。

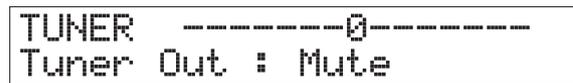
高すぎる場合



低すぎる場合



正しい場合



MIDI Setup - MIDI セットアップ・メニュー

基本的な設定

- MENU ボタンを押します。
- エンコーダー D で、MIDI Setup (MIDI セットアップ) を選択します。
- MENU を押し、選択を確定します。
- エンコーダー D でページを切り替えます。
- エンコーダー C で設定を変更します。

```
MIDI MENU
MIDI Chan : 1
```

MIDI Channel - MIDI チャンネル

設定レンジ：Off、1～16、Omni (オムニ)

Omni を選択すると、全 MIDI チャンネルの情報を受信します。Off の場合は、受信 MIDI 情報に反応しなくなります。

Prg. Change In - プログラム・チェンジ入力

設定レンジ：On / Off

受信 MIDI プログラム・チェンジ情報に対する応答をオン／オフします。

Prg. Change Out - プログラム・チェンジ出力

設定レンジ：On / Off

Prg.Map パラメータとの組み合わせで、プリセットをリコールした際に Nova System の MIDI Out からプログラム・チェンジ情報を送信するかどうかを指定します。

Off MIDI Out からプログラム・チェンジ情報は送信されません。

On プリセットがリコールされた際に MIDI Out からプログラム・チェンジ情報が送信されます。

Prg Map (Program Map) - プログラム・マップ

受信 MIDI プログラム・チェンジ情報に対してリコールされるプリセットを任意に指定できます。

次の例では、MIDI プログラム・チェンジ #1 を受信した際にファクトリー・バンク #0 のプリセット 2 番を呼び出す設定を行いません。

```
MIDI MENU
PrgMP 1 -> F0-2
```

ファクトリー・プリセットは「F」、ユーザー・プリセットは「00-1」～「20-3」と記されます。

PrgMap の設定は MIDI 出力にも反映されます。上の例では、ファクトリー・バンク #0 のプリセット 2 番をリコールすると、MIDI Out からプログラム・チェンジ #1 が送信されます。

Prg Map Reset - プログラム・マップ・リセット

MENU を押し、プログラム・マップがリセットされます。

SysEx ID - システム・エクスクルーシブ ID

設定レンジ：0～126 / ALL

Nova System の MIDI システム・エクスクルーシブ ID を指定します。

Dump System - ダンプ・システム*

MENU を押し、システム全体のバックアップを行いません。Nova System の全ての基本的な設定とユーザー・プリセットの情報が MIDI データ・ダンプされます。

MIDI メニュー

Dump Bank - ダンプ・バンク*

Execute Dump (ダンプ実行) を行なうと、ユーザー・バンクの情報が MIDI データ・ダンプされます。

MIDI 経由のダンプ手順

- MIDI ケーブルを Nova System の MIDI Out から MIDI シーケンス機の MIDI In に接続します。
- シーケンサーを全ての MIDI チャンネルの情報を受信する設定 (Omni) にして、録音を始めます。
- Nova System 側でダンプする内容を設定 (System で全てのデータ、Bank でバンク) して、MENU を押します。

* 標準 MPU401 MIDI インターフェイスを搭載したコンピューターを推奨いたします。

MIDI Clock - MIDI クロック

この機能をオンにすると、テンポをタップする代わりに、外部 MIDI 機器からの MIDI クロックでグローバル・テンポを指定することが可能となります。

MIDI CC メニュー

このメニューでは、エフェクトのオン/オフとタップ・テンポの外部 MIDI コントロールと、エクスプレッション・ペダルにアサインしたパラメータのリアルタイム・コントロールに関連した設定を行なえます。

基本的な設定

- MENU ボタンを押します。
- エンコーダー D で、MIDI CC を選択します。
- MENU を押し、選択を確定します。
- エンコーダー D でページを切り替えます。
- エンコーダー A / B / C で設定を変更します。

MIDI CC

各機能に MIDI CC (コントロール・チェンジ) 番号を割り当てるができます。外部機器側から特定の MIDI CC 番号の値を送信することで、Nova System のパラメータをコントロールすることができます。

MIDI コントロール対応パラメータ

パラメータ	メニュー名	値
Tap Tempo - タップ・テンポ	Tap Tempo	Off、MIDI CC 0 ~ 127
Drive - ドライブ	DRV Off/On	Off、MIDI CC 0 ~ 127
Compressor - コンプレッサー	CMP Off/On	Off、MIDI CC 0 ~ 127
Noise Gate - ノイズゲート	NG Off/On	Off、MIDI CC 0 ~ 127
EQ	EQ Off/On	Off、MIDI CC 0 ~ 127
Boost - ブースト	BST Off/On	Off、MIDI CC 0 ~ 127
Modulation - モジュレーション	MOD Off/On	Off、MIDI CC 0 ~ 127
Pitch - ピッチ	PIT Off/On	Off、MIDI CC 0 ~ 127
Delay - ディレイ	DLY Off/On	Off、MIDI CC 0 ~ 127
Reverb - リバーブ	REV Off/On	Off、MIDI CC 0 ~ 127
Expr. pedal - エクスプレッション・ペダル	Exp Pedal	Off、MIDI CC 0 ~ 127

プリセット操作：リコール & エディット

Recall - リコール (プリセットの呼び出し)

プリセットのリコール方法は、プリセットとペダル・モードで若干異なります。

プリセット・モード

1 / 2 / 3 と記されたスイッチを押すとプリセットがリコールされます。



次のプリセット・バンク番号に移動するには、左上のスイッチを長押しします。



前のプリセット・バンク番号に移動するには、左下のスイッチを長押しします。



ペダル・モード

1 / 2 / 3 と記されたスイッチを使用する点は共通ですが、スイッチをタップするのではなく、約 0.5 秒長押しします。

プリセット・バンクの変更方法は共通です。

Edit - エディット (プリセットの編集)

エディットとは、設定の編集のことを指します。7つの EFFECTS EDIT スイッチのいずれかを押し、Nova System はエディット・モードに切り替わります。

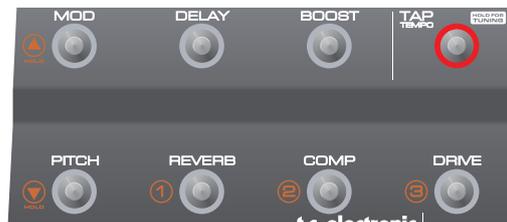
エディット・モードでは、いくつかの操作を行なえます。

エフェクトの選択：エフェクト・エディット・ボタンを押すと、エディット・モードに切り替わります。押すボタンによって、次のような表示となります。



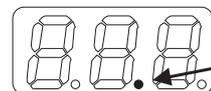
同じボタンを繰り返し押すことによって、エフェクト・アルゴリズムが順番に切り替わります。

エフェクトのエンネーブル/ディスエーブル：エフェクトをエディットしていても、エフェクト・ブロック自体がアクティブになっていないかもしれません。個別のエフェクトをオン/オフするには、該当するエフェクト・スイッチを押します。



設定の変更を保存せずにエディット・モードを終了する：設定の変更を保存せずにエディット・モードを終了するには、MENU を押すか、エディット中の EFFECT EDIT ボタンを長押しする 2 通りの方法があります。

数値ディスプレイに下図のような点が表示されている状態は、プリセットにエディットが施されていることを示します。



プリセット操作：ストア & デリート

Store - ストア（プリセットの保存）

プリセットは、「クイック・ストア」と「ノーマル・ストア」いずれかの方法で保存できます。クイック・ストアは、プリセットに変更を加えた後で、元のプリセットを上書きする形で同じプリセット番号に設定を保存します。別のプリセット番号に設定を保存したり、プリセット名を変更したい場合には、ノーマル・ストアを使用します。

クイック・ストア：STORE を 2 秒間長押しします。同じプリセット名で、同じプリセット領域に現在の設定が保存されます。



ファクトリー・プリセットは上書きできないため、ファクトリー・プリセットに対してクイック・ストアを行なおうとすると、自動的にノーマル・ストアに切り替わります。

ノーマル・ストア：STORE を一度押しします。

次の方法で設定を行ないます。

- エンコーダー A でプリセットの保存場所を指定
- エンコーダー B でプリセット名のキャラクターを選択
- エンコーダー C でキャラクターを変更
- エンコーダー D でリコール（呼び出し）／デリート（削除）／ストア（保存）を切替

設定が完了したら、再度 STORE を押して操作を確定します。

Delete - デリート（プリセットの削除）

ユーザー・バンクのプリセットは、プリセットの整理の目的で削除することができます。

- STORE を一度押しします。
- エンコーダー D で Delete を選択します。
- STORE を押して、操作を確定します。

プリセットを削除する操作手順は、以上です。

DRIVE - ドライブ

Nova Drive Technology (Nova ドライブ・テクノロジー) は、デジタル・コントロールが可能であることを特徴とした、ワールドクラスのアナログ・ディストーションとオーバードライブです。利便性を追求してデジタルのモデリングに逃げることをせず、本物のアナログにこだわった回路を使用しています。サウンドの回路自体は 100% アナログでデジタル・エフェクトとは物理的に分離されたセクションにあるものの、パラメータ設定用のノブはデジタル方式を採用。アナログ回路の設定を記憶させたり瞬時に変更することが可能になるだけでなく、エクスプレッション・ペダルからディストーション量をリアルタイムで操作するといったことも可能となります。広いゲイン・レンジを確保し、軽く割れる程度のサウンドからヘビーなディストーションまでを実現します。

Overdrive - オーバードライブ

Nova System のオーバードライブは、チューブ・アンプの特権であったクラシックなオーバードライブ・サウンドを見本としています。味付け程度のウォームなオーバードライブから叫び狂うリード向けのハイゲインまで、極めて広いレンジを確保しています。

Gain - ゲイン

オーバードライブの量を指定します。低めの設定ではクリーンながらも若干ファット寄りになったサウンドが得られます。ミディアムのセッティングではクランチが、そしてハイゲインの設定では全開のチューブアンプさながらの倍音あふれるオーバードライブが得られます。

Tone - トーン

ハイの量を設定します。

Level - レベル

ドライブ・エフェクトのレベルを指定します。

Boost Level - ブースト・レベル

設定レンジ：0 ~ 10 dB

ブーストを行なう際のブースト量を指定します。上限はレベル・メニューにある Boost Max.パラメータの設定に連動します。

Distortion - ディストーション

オーバードライブに比べてファットでアグレッシブ、同時にダイナミクスとトーンが均一となります。巨大で張り付くようなコード・ブレイや、コンプレッション感のあるリードといった用途に適しています。

Gain - ゲイン

ディストーションの量を指定します。ファットなサウンドから、よりコンプレッション感の強いサウンドまで、広いレンジが特徴です。

Tone - トーン

ハイの量を設定します。

Level - レベル

ディストーション・エフェクトのレベルを指定します。

Boost Level - ブースト・レベル

設定レンジ：0 ~ 10 dB

ブーストを行なう際のブースト量を指定します。上限はレベル・メニューにある Boost Max.パラメータの設定に連動します。

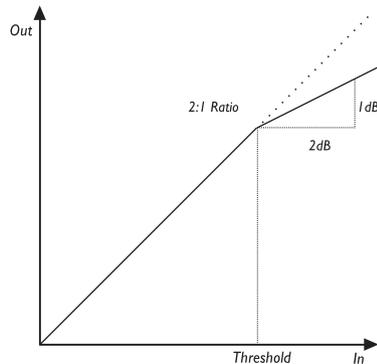
Compressor - コンプレッサー

概要

コンプレッサーは、信号のダイナミクス（音量の強弱）をコントロールするためのエフェクトです。信号のダイナミクスを均一化させてギター・サウンドをより明確に聴こえる様にしたたり、もっとラディカルで特徴的なエフェクトを得ることもできます。

Nova System は 3 種類のコンプレッションを搭載し、目的に応じて適切なサウンドをより素早く得ることを可能としています。

コンプレッション概要図



図の通り、入力の信号がスレッシュホールド・ポイントを超えると、出力は指定したレシオの比率に応じてアッテネートされます（すなわち、増加が抑えられます）。アタック・パラメータはアッテネーションが得られる速度を指定します。コンプレッションは音量の増加を抑えるため、そこで失われた全体的な音量はレベル・パラメータで補正します。

Nova System のコンプレッサー

コンプレッサー・パラメータの基本的な設定

- COMP を押します。
- エンコーダー D でページを切り替えます。
- エンコーダー A ~ C でパラメータを調節します。

Advanced Compressor - アドバンス・コンプレッサー

このモードでは、全てのパラメータを個別に調節できます。

Threshold - スレッシュホールド

設定レンジ： -30 dB ~ 0 dB

入力がこの値を超えると、コンプレッサーが作動します。スレッシュホールドを超えた信号は、レシオ／アタック／リリースで設定された特性に合わせてプロセスされます。

Ratio - レシオ

設定レンジ： Off / 1.12:1 ~ inf (無限) :1

レシオの設定値は、信号の圧縮の強さを示します。

例： 2:1 にレシオを設定した場合、入力がスレッシュホールド値から 4dB 上がると、出力は 2dB 上がります。inf の設定では、リミッターとして作動します。

Attack - アタック

設定レンジ： 0.3 ms ~ 140 ms

コンプレッサーが反応するのにかかる時間です。アタック・タイムが短いほど、信号がスレッシュホールド値を超えてから指定レシオに圧縮されるまでの時間が短くなります。

Release - リリース

設定レンジ： 50 ms ~ 2000 ms

入力信号がスレッシュホールド値を下回った際に、コンプレッサーがゲイン・リダクションを「解放」し、入出力レベルの比率が 1:1 に戻るまでの時間です。

COMPRESSOR - コンプレッサー

Out Gain - アウト・ゲイン

設定レンジ：-12 ~ +12 dB

ゲインを調節します。コンプレッションによって変動したレベルの補正に使用します。

Sustaining / Percussive Compressor - サステイン/パーカッシブ・コンプレッサー

サステインとパーカッシブ・コンプレッサーは、通常のコンプレッサーに比べてパラメータの数が簡略化されています。適切なチューニングを行なうことにより、一般的なスタイルのコンプレッションを容易に得られます。

Sustaining Compressor (サステイン・コンプレッサー) は、音を極度に潰すことなく、サステインを得られます。

Percussive Compressor (パーカッシブ・コンプレッサー) は、多くのコンパクト・エフェクトなどに代表される、特徴的で効果が明確な、強いコンプレッションを得られます。

この2つのモードは異なるチューニングが施されていますが、パラメータは共通となっています。

Drive - ドライブ

設定レンジ：1 ~ 20

スレッシュホールドとレシオを同時に調節し、全体的なコンプレッションの量を調節します。自動的にメイクアップ・ゲインが施されますが、極端な設定では、Gain パラメータでレベルを微調節する必要があるかもしれません。

Response - レスポンス

設定レンジ：1 ~ 10

コンプレッサーがゲイン・リダクションを「解放」するまでの時間を指定します。設定が低いほど、コンプレッションが明確になります。

Gain - ゲイン

設定レンジ：-12 ~ 12 dB

ゲインを調節します。Drive と Response の設定と組み合わせに応じて、レベルの補正に使用します。

EQ & NOISE GATE - EQ & ノイズゲート

EQ - パラメトリック EQ

概要

Nova System は、3バンドのイコライザーを搭載しています。エフェクトとしてプリセット毎に異なる設定を使用するか、マスターEQとして全てのプリセットで共通の設定を使用するかを選択できます。

EQとノイズゲート・パラメータの基本的な設定

- EQを押して、EQ/ゲートのエディット・モードに入ります。
- エンコーダーDでページを切り替えます。
- エンコーダーA～Cでパラメータを調節します。
- ノイズゲートのパラメータは、EQの後のページにございます。

EQは3バンド構成で、バンド毎に次のパラメータが用意されています。

Freq - フリークエンシー (周波数)

設定レンジ：41 Hz ~ 20 kHz

アッテネートまたはブーストしたい周波数の中心点を指定します。

Gain - ゲイン

設定レンジ：-12 ~ +12 dB

Freqパラメータで指定した周波数レンジのブースト/カット量を指定します。

Width - ワイズ (幅)

設定レンジ：0.3 ~ 1.6 oct.

Freqで指定した周波数を中心にして、どれだけの幅でEQを施すかを指定します。

Gate - ノイズゲート

ノイズゲートは、ギターを演奏しない時に信号を減衰させることにより、システム中に発生するヒスやハムノイズを落とす目的に使用されます。

しかしながら、これは、ノイズ問題の根本的な解決につながる訳ではありません。まずは、ノイズの発生を極力防止することが必要です。ノイズの発生要因は様々で、一般的なノイズ源としては、品質の低いケーブル、シールドが不十分なピックアップ、信号ケーブルの近くにあるACアダプター、一部のコンパクト・ペダルなどがあげられます。

どのようなギターのセットアップにも、多少のノイズは常在します。通常、ノイズのレベルは演奏のレベルに関わらず一定なため、ノイズの相対的なレベルは楽器を演奏していない時が一番高くなります。ノイズゲートは、無音時のノイズを減少させることに役立ちます。ただし、スレッシュホールド(しきい値)とリリース・レートを設定する時には注意が必要です。スレッシュホールドが高すぎると、ギターを静かに弾いたときなどにゲートが開かなくなります。リリースが遅すぎると、アタックがカットされてしまい、不自然な音になってしまいます。

ノイズゲートのパラメータはEQブロック内にあります。

- EQを押します。
- GateがOnになっていることを確認します。

EQ				Gate		
On				On		

- EQパラメータのページを通過すると、ノイズゲート設定のページが2つ用意されています。

Gate						
Soft						

Thres		Damp		Releas		
-31dB		50dB		100dBs		

EQ & NOISE GATE - EQ & ノイズゲート

Mode - モード

設定レンジ：Hard（ハード）／Soft（ソフト）

ノイズゲートの基本的な特性を指定します。信号がスレッシュホールドを下回ったときにノイズゲートが信号を減衰させる速度を指定します。

Thres (Threshold) - スレッシュホールド

設定レンジ：-60 dB ～ 0 dB

ノイズゲートが信号の減衰を開始するレベルを指定します。このパラメータを設定するには、まずはDampパラメータを50 dB等に設定します。続いて、Thresを-60 dBから所望の減衰開始値まで上げます。Dampパラメータが0 dBの設定ではダンピングが起きませんので、Dampパラメータは0 dB以外であることが必須となります。

Damp - ダンピング

設定レンジ：0 dB ～ 90 dB

信号がスレッシュホールドを下回ったときに信号をアッテネートする強さを設定します。最大の減衰量が常に適切であると解釈することも可能ですが、違和感を感じさせないにはゲートの作動／非作動時の切り替えがスムーズであることも重要なポイントとなります。Dampの設定値が高いほど、ノイズゲートの切り替わりが明確になりがちです。

Releas (Release) - リリース

設定レンジ：0 dB/sec ～ 200 dB/sec

信号が入力信号がスレッシュホールドを超えた時に信号がリリースされる速さを設定します。原則として、このパラメータは高めの設定でご使用ください。

Phaser - フェーザー

概要

フェーザー効果の電子的な原理は、まず信号を2つの系統に分岐することからはじまります。片方の系統はオールパス・フィルターを通過し、アンプリチュードはそのままに位相を変化させます。位相の変化は周波数によって異なります。この信号を原音と重ねると、位相差が生じている周波数においてキャンセレーションが生じて、フェーザー独特のノッチが得られます。

Speed - スピード

設定レンジ：0.050 Hz ~ 20Hz

エフェクトの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore (無視) / 2 ~ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメータの設定を適用します。



ユーティリティ・メニューの Tap Master パラメータで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ~ 100%

エフェクトの深さを調節します。値は、変調波形の振幅を示します。

Filter (Type) - フィルター・タイプ

設定レンジ：4 / 8 / 12

フィルター数を指定します。フィルター数が少ない程エフェクトの粒が粗くなり、フィルター数が多い程なめらかになります。

Fb (Feedback) - フィードバック

設定レンジ：-100 ~ +100 %

フェーザーのフィードバック量を調節します。パラメータの値をマイナスの値に設定すると、アルゴリズムの入力にフィードバックされる信号の位相が反転します。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%

ドライ (ダイレクト) 音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

TREMOLO - トレモロ

Tremolo - トレモロ

概要

トレモロは基本的にLFOによってレベルを変調する効果です。Nova Systemではソフトで滑らかなものからハードでアグレッシブなものまで幅広いトレモロが得られます。

Speed - スピード

設定レンジ：0.050 Hz ~ 20 Hz

エフェクトの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore (無視) / 2 ~ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメータの設定を適用します。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ~ 100%

エフェクトの深さを調節します。値は、変調波形の振幅を示します。

Type - タイプ

設定レンジ：Soft (ソフト - サイン) / Hard (ハード - 矩形)

トレモロの曲線には2種類あります。Hard はより強い効果が得られます。実際に違いを耳で聞いてみてください。

ソフト



ハード



Width - ワイズ

設定レンジ：0 ~ 100%

LFO 波形のパルス幅を制御します。

パルスワイズ



HiCut - ハイカット

設定レンジ：20 Hz ~ 20 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。Depth の設定を変更することなく効果を和らげるには、このパラメータを試してみてください。

Panner - パンナー

概要

信号を左右チャンネル間に揺らします。

Speed - スピード

設定レンジ：0.050 Hz ~ 20 Hz

エフェクトの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore (無視) / 2 ~ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメータの設定を適用します。



ユーティリティ・メニューの Tap Master パラメータで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ~ 100%

エフェクトの深さを調節します。100% の設定では、完全に左から完全に右まで振られます。ほとんどの場合においては、極端すぎない設定の方が全体のサウンドに馴染み、良好な結果が得られます。

CHORUS - コーラス

Chorus - コーラス

概要

Nova System のコーラスは、シンプルでクラシックなコーラス・サウンドからよりエグジゾチックなものまで、幅広いサウンドを得られます。

コーラスは、基本的に、原音を 2 系統に分割して、片方の音程を変調させる効果です。

Speed - スピード

設定レンジ：0.050 mHz ~ 20 Hz

エフェクトの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore (無視) / 2 ~ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメータの設定を適用します。



ユーティリティ・メニューの Tap Master パラメータで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ~ 100%

エフェクトの深さを調節します。値は、変調波形の振幅を示します。

HiCut - ハイカット

設定レンジ：20 Hz ~ 20 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じ、ミックスないし出力レベルを下げてもコーラス効果が思う様に低減されない場合は、このパラメータを試してみてください。

Cho DI (Chorus Delay) - コーラス・ディレイ

設定レンジ：0 ~ 50 ms

前述の通り、コーラス／フランジャーは LFO 変調されたディレイと解釈できます。ここで、そのディレイ・タイムを指定できます。典型的なコーラスは 10 ms 前後、フランジャーは 0.8 ms 前後の設定となります。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%

ドライ (ダイレクト) 音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

Flanger - フランジャー

概要

フランジャーはコーラスと同じ血筋を持ったモジュレーション・エフェクトです。原音は2系統に分割され、片方の音程が変調されます。

フランジャーは、信号の一部に若干のディレイを施し、エフェクトの入力にフィードバックすることにより、その独特なサウンドを生成します。その効果の幅を確認するには、フィードバックの値をお試しください。

Speed - スピード

設定レンジ：0.050 Hz ~ 20 Hz

エフェクトの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore (無視) / 2 ~ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメータの設定を適用します。



ユーティリティ・メニューの Tap Master パラメータで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ~ 100%

エフェクトの深さを調節します。値は、変調波形の振幅を示します。

HiCut - ハイカット

設定レンジ：20 Hz ~ 20 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じ、ミックスないし出力レベルを下げててもフランジャー効果が思う様に低減されない場合は、このパラメータを試してみてください。

FeedB (Feedback) - フィードバック

設定レンジ：-100 ~ 100 %

エフェクトの出力から入力に循環させるフィードバック (レゾナンス) 信号の量を調節します。フィードバック値が大きすぎる (90 ~ 95 % 以上) と、内部フィードバックにより発信ノイズが発生する可能性がありますので、大きな音量で試すときには注意してください。パラメータの値をマイナスの値に設定すると、アルゴリズムの入力にフィードバックされる信号の位相が反転します。

FB Cut (Feedback Highcut) - フィードバック・ハイカット

設定レンジ：20 Hz ~ 20 kHz

Feedback パラメータの設定によって生じるレゾナンス成分の高周波をアッテネートします。

Fla DI (Flanger Delay) - フランジャー・ディレイ

設定レンジ：0 ~ 50 ms

前述の通り、コーラス/フランジャーはLFO変調されたディレイと解釈できます。ここで、そのディレイ・タイムを指定できます。典型的なコーラスは10 ms前後、フランジャーは0.8 ms前後の設定となります。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%

ドライ (ダイレクト) 音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

VIBRATO - ビブラート

Vibrato - ビブラート

概要

ビブラートは入力信号のピッチを変調します。得られる結果は、ボーカリストのビブラート・テクニックに似ています。コーラスやフランジャーとは異なり、ピッチ変調音に対して元の信号は加えません。



Speed - スピード

設定レンジ：0.050 Hz ~ 20 Hz

エフェクトの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore（無視） / 2 ~ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメータの設定を適用します。



ユーティリティ・メニューの Tap Master パラメータで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ~ 100%

エフェクトの深さを調節します。値は、変調波形の振幅を示します。

HiCut - ハイカット

設定レンジ：20 Hz ~ 17.8 kHz / Off

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じる場合にお試しください。

Detune - ディチューン

ディチューンは、指定したセント数、音程をずらします（100 セント＝1 セミトーン）。効果はコーラスと類似していますが、ディチューンは音程差が一定です。ディチューン・アルゴリズムは2つのヴォイスを搭載します。サウンドが「直接的」過ぎると感じる時は、たとえばVoice 1 に+2 セント、Voice 2 に-3 セント、といった具合に、設定値を数セントずつずらしてみてください。

Voice 1 - ヴォイス 1

設定レンジ： -100 ～ 100（セント）

ヴォイス 1 のディチューン量を指定します。

Voice 2 - ヴォイス 2

設定レンジ： -100 ～ 100（セント）

ヴォイス 2 のディチューン量を指定します。

Dly 1 - ディレイ 1

設定レンジ： 0 ～ 50 ms

ヴォイス 1 に与えるディレイの量を指定します。

Dly 2 - ディレイ 2

設定レンジ： 0 ～ 50 ms

ヴォイス 2 に与えるディレイの量を指定します。

Mix - ミックス

設定レンジ： 0 ～ 100%

ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

Whammy - ワーミー

外部エクスプレッション・ペダルから音程をコントロールできます。ワーミー・エフェクトを使ったファクトリー・プリセットをリコールした場合、ペダル入力端子に接続されたペダルは自動的に Pitch パラメータに割り当てられ、ワーミー・ペダルとして使用できる様になります。

Pitch - ピッチ

設定レンジ： 0 ～ 100%

Range で設定したピッチ変更幅に対する比率を指定します。ペダルを使用する場合は、ペダルの位置によってこのパラメータがリアルタイムに調節されます。

Dir (Direction) - 方向

設定レンジ： Down / Up

ペダルを踏み込んだ時にピッチを上げるか下げるかを設定します。ディフォルトは、トー・ダウンの状態ではピッチが上がる Up の設定です。

Range - レンジ

設定レンジ： 1 Oct / 2 Oct

音程変更の上下幅を指定します。極端な効果には 2-Oct を、一般的なワーミー効果には 1-Oct を選択します。

PITCH - ピッチ

Octaver - オクターバー

オクターバーは、原音に対して、上下いずれかの方向に1か2オクターブ音程をずらした音を加えます。

Dir (Direction) - ディレクション (方向)

設定レンジ：Down / Up

原音に対してのオクターバーの音程を、上下で指定します。

Range - レンジ

設定レンジ：1 Oct / 2 Oct

原音に対してのオクターブ差を指定します。オクターブの上下の指定は、Dirパラメータで行ないます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%

ドライ (ダイレクト) 音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

Pitch Shifter - ピッチシフター

概要

ピッチシフターは、信号に特定の音程をずらした音を加えます。Nova Systemのピッチシフターは、原音に対して2ヴォイス分、それぞれ最大1オクターブずらした音を加えられます。Nova Systemの処理速度は、ピッチ検出にかかる遅延を気にすることなく使用でき、かつてのオクターバーと比べ物にならないほど高速です。

Voice1 - ヴォイス1

設定レンジ：-1200 ~ 1200 Cent（セント）

ヴォイス1のピッチシフト量を指定します。100セントは半音なので、入力ピッチの1オクターブ下から1オクターブ上まで音程を指定できます。

Voice2 - ヴォイス2

設定レンジ：-1200 ~ 1200 Cent（セント）

ヴォイス2のピッチシフト量を指定します。100セントは半音なので、入力ピッチの1オクターブ下から1オクターブ上まで音程を指定できます。

Pan1 - パン1

設定レンジ：-50 ~ 50

ヴォイス1のパンニングを指定します。マイナスの値は左、プラスは右です。

Pan2 - パン2

設定レンジ：-50 ~ 50

ヴォイス2のパンニングを指定します。マイナスの値は左、プラスは右です。

Delay1 - ディレイ1

設定レンジ：0 ~ 350 ms

ヴォイス1のディレイ・タイムです。

Delay2 - ディレイ2

設定レンジ：0 ~ 350 ms

ヴォイス2のディレイ・タイムです。

FB1 - フィードバック1

設定レンジ：0 ~ 100%

ヴォイス1のディレイ成分の反復量を指定します。

FB2 - フィードバック2

設定レンジ：0 ~ 100%

ヴォイス2のディレイ成分の反復量を指定します。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%

ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100 dB ~ 0 dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

PITCH - ピッチ

Intelligent Pitch Shifter -

インテリジェント・ピッチシフター

Nova System のインテリジェント・ピッチシフターは2 ヴォイスの構成で、あらゆるキーで様々なスケールを使用可能です。ヴォイスのレンジは、上下それぞれ 13 スケール・ステップで、これは音程に換算すると上下1 オクターブを超えたダイアトニック 6th となります。

Key - キー

インテリジェント・ピッチシフターが正しいヴォイスを行うには、演奏するキーを指定する必要があります。キーは、次の中から選択できます： C / C# / D / D# / E / F / F# / G / G# / A / A# / B。

Scale - スケール

演奏するスケールを指定します。次のスケールが選択できます：

ラベル	フルネーム	スケール・ステップ
Ionian	Ionian - イオニアン	1,2,3,4,5,6,7
Dorian	Dorian - ドリアン	1,2,b3,4,5,6,b7
Phrygi	Phrygian - フリジアン	1,b2,b3,4,5,b6,b7
Lydian	Lydian - リディアン	1,2,3,#4,5,6,7
Mixoly	Mixolydian - ミクソリディアン	1,2,3,4,5,6,b7
Aeolia	Aeolian - エオリアン	1,2,b3,4,5,b6,b7
Locria	Locrian - ロクリアン	1,b2,b3,4,b5,b6,b7
PntMin	Pentatonic minor - ペントニック・マイナー	1,b3,4,5,b7
PntMaj	Pentatonic major - ペントニック・メジャー	1,2,3,5,6
Blues	Blues - ブルーズ	1,b3,4,b5,5,b7
DimWhl	Diminished whole - ディミニッシュ・ホール	1,2,b3,4,b5,b6,6,7
Whole	Wholetone - ホールトーン	1,2,3,#4,#5,b7
HrmMin	Harmonic minor - ハーモニック・マイナー	1,2,b3,4,5,b6,7

Voice 1-2 - ヴォイス 1-2

設定レンジ：-13 ~ Unison (ユニゾン) ~ 13

インテリジェント・ピッチシフターは、選択したスケールで2つのヴォイスを追加できます。演奏されている音程と、選択したスケールタイプ及びキーに応じて、正しいインターバルが自動的に計算されます。

Level 1-2 - レベル 1-2

設定レンジ：-100 ~ 0 dB

各ヴォイスのレベルを独立して調節できます。

Pan Position 1-2 - パン・ポジション 1-2

設定レンジ：± 50

各ヴォイスのパンニング・ポジションを独立して調節できます。0 がセンターとなります。ヴォイスをパンニングすることによって、よりワイドなサウンドが得られます。

Delay 1-2 - デレイ 1-2

設定レンジ：0 ~ 50 ms

二人のギタリストが同時に演奏している場合、タイミングが完全に一致することはあり得ず、若干のズレが生じます。ハーモニー・ヴォイスに対して若干のデレイを加えることで、その効果をシミュレートできます。わずか 10 ~ 20 ms 程度のデレイで、ナチュラル且つスムーズな効果が得られます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%

ドライ (ダイレクト) 音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ~ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Delay - ディレイ

概要

Nova System は、標準的なディレイ・タイプに加えて斬新な効果を得られるいくつかの特殊タイプを搭載しており、ディレイが必要となる様々な場面に応えます。

- Clean Delay クリーン・ディレイ
- Analog Delay アナログ・ディレイ
- Tape Delay テープ・ディレイ
- Ping Pong ピンポン
- Dynamic Delay ダイナミック・ディレイ
- Dual Delay デュアル・ディレイ

ディレイは全てスプリアオーバー機能を搭載しており、プリセットを変更した際に音が途切れません。ディレイのテンポはグローバル・テンポを適用するか、MIDI クロックに同期させることができます。

ディレイの共通パラメータ

次のパラメータは、ディレイ・タイプ全てに共通しています。特定のタイプに固有のパラメータは、それぞれのディレイ・タイプのセクションで解説します。

Delay - ディレイ・タイム

レンジ：0 ~ 1800 ms

ディレイ成分の間隔を指定します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore (無視) / 2 ~ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメータの設定を適用します。



ユーティリティ・メニューの Tap Master パラメータで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメータのいずれを適用するかを指定できます。

Fb (Feedback) - フィードバック

設定レンジ：0 ~ 120%

エフェクトの出力から入力に循環させる信号の量を設定し、反復する成分の量を指定します。



100% 以上の値では内部フィードバックが生じますので、高い設定値にはお気を付けてください。Nova System はディレイのスプリアオーバー機能を搭載しているため、内部フィードバックが生じた際に一度ディレイをオフにしなければフィードバックは消えません。ここでの設定を 100% 以下に落とすのが一番直接的な解決法ですが、2 度連続してディレイ・タイプを変更するか、ディレイを使用している他のプリセットに 2 度連続して切り替える方法もございます。

LoCut (Feedback LoCut) - フィードバック・ローカット

設定レンジ：20 Hz ~ 20 kHz

指定周波数を下回る周波数のレベルを落とします。Feedback HiCut パラメータがエフェクトのローエンドを削ぐのと同様に、ディレイ成分をより馴染みのよいサウンドに仕立て上げることができる場合があります。

FbhCut (Feedback HiCut) - フィードバック・ハイカット

設定レンジ：20 Hz ~ 20 kHz

最新のデジタル技術は、極めて正確な音声の再現を可能とし、ディレイ効果における反復成分なども極めて高音質で行える様になりました。しかし、原音に忠実なディレイは、その忠実さ故に原音を邪魔してしまう場合があります。

FbhCut は、指定周波数を超える周波数のレベルをアッテネートします。ディレイのハイを落とすことによってアナログ・ライクなサウンドが得られ、多くの場面で、より馴染みのよいサウンドに仕立て上げることができます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%

ドライ (ダイレクト) 音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

DELAY - ディレイ

Clean Delay - クリーン・ディレイ

クリーン・ディレイは、Nova System のディレイで最も基本的かつシンプルなタイプです。単体ディレイ・ラインの構成です。

共通パラメータのみ

クリーン・ディレイのパラメータは「ディレイの共通パラメータ」セクションをご参照ください。

Analog Delay - アナログ・ディレイ

アナログ・スタイルのディレイをシミュレートします。フィードバックを100%以上に設定した場合に得られるクリップ時のサウンドも再現しています。ハイカットとローカット・フィルターを積極的に活用し、高めのフィードバック設定でご使用ください。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメータ」セクションの内容に加えて、次の追加パラメータが用意されています。

Drive - ドライブ

設定レンジ：0～24 dB

高域の信号ロスと合わせて、クリッピング時に生じる音の劣化をシミュレートします。

Tape Delay - テープ・ディレイ

往年のテープ式ディレイ機のサウンドをシミュレートします。多くのテープ・ディレイでみられるサチュレーションを付加するための Drive パラメータが用意されています。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメータ」セクションの内容に加えて、次の追加パラメータが用意されています。

Drive - ドライブ

設定レンジ：0～24 dB

設定が高い程、反復成分にアナログ感のあふれる歪みが増します。

Ping Pong - ピンポン

ピンポン・ディレイは、ディレイの反復成分を左右にパンニングし、ステレオ感を強調します。Width パラメータで、エフェクトのステレオ感を調節できます。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメータ」セクションの内容に加えて、次の追加パラメータが用意されています。

Width - ワイズ (幅)

設定レンジ：0～100 %

ディレイの反復成分がセンターからどれだけ左右に振られるかを指定します。

Dynamic Delay - ダイナミック・ディレイ

ダイナミック・ディレイは名機 TC2290 で初めて搭載された機能で、入力レベルのダイナミクスをディレイの出力レベルに連動させます。演奏中は原音をクリアに聞かせ、演奏していない時点でディレイ成分をより明確に聞かせることができる、デリケートで上品な効果です。Sense パラメータで、ディレイが再浮上する際の特性を指定できます。Offset パラメータで、ステレオ・イメージを広げることができます。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメータ」セクションの内容に加えて、次の追加パラメータが用意されています。

Offset - オフセット

設定レンジ：0～200 ms

右チャンネルのディレイ成分のタイムをオフセットします。左右チャンネルのディレイ・タイムは、異なる方がよりワイドなディレイ効果を得られます。数ミリ秒でワイド感が得られ、それ以上の設定では、スラップバック効果や、より極端な効果が得られます。

Sense (Sensitivity) - センシティブィティ (感度)

設定レンジ：-50～0 dB

入力信号のレベルと連動してどの時点でディレイの反復成分を聴こえる様にするかを指定します。ギター信号とディレイ成分のスレッシュホールドと解釈することができます。

Damp - ダンピング

設定レンジ：0 ~ 100 dB

概要で説明されている通り、ダイナミック・ディレイは入力レベルに連動してディレイの反復成分のレベルを調節します。Damp は、信号をアッテネートする強さを設定します。

Rel. (Release) - リリース

設定レンジ：20 ~ 1000 ms

ダイナミック・ディレイによるアッテネーションが終了する際にかかる時間を設定します。

Dual Delay - デュアル・ディレイ

デュアル・ディレイは、2つの独立したディレイを同時に作動させます。それぞれ独立してテンポ、ハイ/ローカット、パンを指定できます。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメータ」セクションの内容に加えて、次の追加パラメータが用意されています。

Pan 1 & Pan 2 - パン 1 & パン 2

設定レンジ：50L ~ 50R

各ディレイ・ラインのパンニング位置を指定します。

FX Mute (Spillover) -

エフェクト・ミュート (スピルオーバー)

FX Mute パラメータは、プリセットを切り替えるまたはエフェクトをバイパスした際のリバーブとディレイの反応を指定します。FX Mute パラメータは、ユーティリティ・メニューにございます。

Soft - ソフト

ディレイとリバーブは鳴り続けます。

ディレイはスピルオーバー機能を搭載しており、FX Mute パラメータが Soft の状態で長いディレイ・タイムの設定を使用している場合、異なるディレイの設定を使用したプリセットに切り替えた際にも元のエフェクトが鳴り続けます。

リバーブの場合、プリセット変更時に鳴り続ける設定にできますが、切り替えた新しいプリセットの設定に移ります。

Hard - ハード

ディレイとリバーブはミュートされます。

REVERB - リバース

Reverb - リバース

概要

リバースは、残響を生成します。Nova System は、4 種類のクラシックなリバースを搭載しています。それぞれは共通のパラメータを持ちますが、同じ設定でも得られるサウンドは異なります。

Spring - スプリング

ヴィンテージのギターアンプなどに内蔵される、往年のスプリング・リバースのサウンドを再現します。

Hall - ホール

比較的大きいホールを想定し、ナチュラルな音響特性を念頭にデザインされています。中間から長めのディケイタイムを要求する素材に優れた適応性を発揮する、汎用性の高いリバースです。

Room - ルーム

内装された比較的小さい部屋を想定しています。多くの反射は内装の柔らかい素材により吸収され、音の反射と残響の持続は壁面が主成分となります。

Plate - プレート

デジタル世代以前のリバース機は、反響するスプリングか大きな鉄板を用いてリバースの効果を生成していました。鉄板を使用した機器はプレート・リバースと呼ばれ、拡散的でブライトな音を特徴としています。ナチュラルに溶け込む音ではなく、エフェクトを目立たせる用途に適しています。

これらの解説は、目的に応じてリバースの種類を選ぶ際の目安としてご使用ください。「リバース」と一言でくくってもサウンドは幅広いため、実験する際には、様々なタイプで各種の設定をお試しいただくことをお勧めいたします。

リバースの共通パラメータ

Decay - ディケイ

設定レンジ：0.1 ~ 20 sec

余韻の減衰時間を指定します。この時間は、リバース・テール（余韻成分）がおおよそ 60 dB 減衰する時間として定義されます。

PreDly (Pre Delay) - プリディレイ

設定レンジ：0 ~ 100 ms

原音とリバース・テールの間に挿入される短いディレイです。リバース音が原音の輪郭を損なわない様に原音とリバースを分離させる効果が得られます。

Shape - シェイプ

設定レンジ：Round / Curved / Square

空間の形状です。

Size - サイズ

設定レンジ：Small / Medium / Large

ディケイ・タイムは全てのリバース・タイプで 0.1 から 20 秒まで設定できますが、このパラメータで空間の全体的な大きさを指定できます。よりリアルな余韻の長い大きい空間を得るには、ここでの設定を Large にしてください。同様に、それよりも小さい空間を得るには、Medium か Small を選択します。

しかしながら、求めるサウンドが必ずしもリアルな効果が必要としているとは限りません。意図的に逆の設定を行なうことによって効果的なサウンドを得られるかもしれません。

Hi Col (High Color) & Lo Col (Low Color) -ハイ/ロー・カラー

設定レンジ：Hi Col - Wool / Warm / Real / Clear / Bright / Crisp / Glass

Lo Col - Thick / Round / Real / Light / Tight / Thin / NoBass

ローとハイの成分において、異なるカラーのリバースが得られます。ダークでアンビエントな効果からブライトなものまで、設定によってリバースの特性が大幅に変化します。

Hi Lev (High Level) & Lo Lev (Low Level) - ハイ/ロー・レベル

設定レンジ：-25 ~ 25

選択した Hi Color と Lo Color タイプの特徴を強調またはアッテネートします。

Early - アーリー (初期反射レベル)

設定レンジ：-100 ~ 0 dB

リバーブの初期反射音のレベルを指定します。

RevLev (Reverb Level) - リバーブ・レベル

設定レンジ：-100 ~ 0 dB

リバーブの余韻成分のレベルを指定します。

Diff (Diffuse) - ディフュージョン (拡散)

設定レンジ：-25 ~ 25

リバーブの余韻成分の密度を調節します。ディケイ・タイムを指定すると自動的に設定され、余韻のフラッターを最小限に抑えます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%

ドライ (ダイレクト) 音とこのエフェクト・ブロックのエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

仕様及び性能

アナログ入力

コネクター (バランス) インピーダンス	1/4" フォーンジャック ライン : 21 k Ω (バランス) / 13 k Ω (アンバランス)
0dBFS 到達ラインレベル	24 dBu ~ 0 dBu
ライン感度 @12 dB ヘッドルーム	12 dBu ~ -12 dBu
ドライブ入力レベル @ 0 dBFS	18 dBu ~ -6 dBu
ドライブ感度 @12 dB ヘッドルーム	6 dBu ~ -18 dBu
THD	< -100 dB (0.001 %) @ 1 kHz
クロストーク	< -85 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
A/D 変換	24 ビット、128 x オーバーサンプリング・ ビットストリーム

アナログ出力

D/A 変換	24 ビット、128 x オーバーサンプリング・ ビットストリーム
D/A 変換遅延	0.63 @ S.R.= 48 kHz
コネクター (バランス) 出力インピーダンス 最大出力レベル	1/4" フォーンジャック 40 Ω 20 dBu (バランス) / 14 dBu (アンバランス)、 R-load = 1200 Ω
出力レンジ ダイナミックレンジ	20 dBu / 14 dBu / 8 dBu / 2 dBu > 104 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
THD	< -98 dB (0.0013 %) @ 1 kHz
周波数特性	+0/-0.3 dB, 20 Hz ~ 20 kHz

EMC

準拠基準	EN 55103-1 and EN 55103-2 FCC part 15, Class B, CISPR 22, Class B
------	--

安全

準拠規格	IEC 65, EN 60065, UL6500, CSA E60065 CSA FILE #LR108093
------	--

環境

作動環境温度	0 °C ~ 50 °C (32 °F ~ 122 °F)
保存環境温度	-30 °C ~ 70 °C (-22 °F ~ 167 °F)
湿度	最大 90 % (結露なきこと)

コントロール・インターフェイス

MIDI ペダル	In / Out / Thru: 5 ピン DIN 1/4" フォーンジャック
-------------	--

その他

ディスプレイ	24 x 2 キャラクター LCD
寸法	284 x 89 x 267 mm (11.2" x 3.5" x 10.25")
重量	1.85 kg (4.1 lb.)
主電源電圧	100 ~ 240 VAC, 50 / 60 Hz (自動選択)
消費電力	< 15 W
保証	1 年

製品の改良のため、仕様は予告なく変更となる場合がございます。